

非麻薬性鎮咳剤

** ジメモルファンリン酸塩シロップ小児用0.25%「TCK」

《ジメモルファンリン酸塩シロップ》

D I M E M O R F A N P H O S P H A T E

貯法：遮光保存、気密容器（【取扱い上の注意】の項参照）
使用期限：外装に表示

** 承認番号	22700AMX00266000
** 薬価収載	2015年6月
販売開始	1984年7月

**【 組成・性状 】

1. 組成

ジメモルファンリン酸塩シロップ小児用0.25%「TCK」は1mL中にジメモルファンリン酸塩を2.5mg含有する。添加物として、白糖、メチルパラベン、プロピルパラベン、プロピレングリコール、エタノール、クエン酸Na水和物、クエン酸水和物、黄色5号、香料を含有する。

2. 製剤の性状

ジメモルファンリン酸塩シロップ小児用0.25%「TCK」はだいたい色澄明の粘稠なシロップ剤で、芳香、甘味を有する。
(pH:3.0~4.5 比重:1.1~1.3)

【 効能又は効果 】

下記疾患に伴う鎮咳

上気道炎、急性気管支炎、肺炎

【 用法及び用量 】

通常、下記1日量を3回に分けて経口投与する。

2才未満	3.0~4.5mL
2~3才	5.0~8.0mL
4~6才	8.0~11.0mL
7~14才	12.0~14.0mL

但し、年齢、症状により適宜増減する。

【 使用上の注意 】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 糖尿病又はその疑いのある患者〔耐糖能に軽度の変化を来たすことがある。〕
- (2) 薬物過敏症の患者

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹等
精神神経系	めまい、眠気、頭痛、頭重、脱力感、倦怠感
消化器	口渇、食欲不振、悪心、嘔吐、下痢等
循環器	頻脈、動悸、顔面潮紅

注) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

3. 高齢者への投与

高齢者では減量するなど注意すること。〔一般に高齢者では生理機能が低下している。〕

4. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

5. 適用上の注意

調製時

- (1) プロチンコデインシロップとの配合を避ける。
〔配合すると沈殿を析出する。〕
- (2) エリスロマイシンのドライシロップ又はジョサマイシンシロップと配合すると苦くなるが、抗生物質の力価低下などの本質的な変化は認められない。

**【 薬効薬理 】

非麻薬性中枢性鎮咳薬で、鎮咳効果は麻薬性のものに及ばないが、耐性や依存性がないという利点がある。作用機序は咳中枢の抑制であるが、オピオイド受容体とは異なる受容部位に結合することによると考えられている。¹⁾

【 有効成分に関する理化学的知見 】

一般名：ジメモルファンリン酸塩 (Dimemorfan Phosphate)

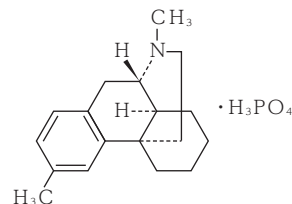
化学名：(9S,13S,14S)-3,17-Dimethylmorphinan monophosphate

分子式：C₁₈H₂₅N・H₃PO₄

分子量：353.39

融点：約265℃（分解）

構造式：



性状：白色～微黄白色の結晶又は結晶性の粉末である。酢酸(100)に溶けやすく、水又はメタノールにやや溶けにくく、エタノール(95)に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

**【 取扱い上の注意 】

本品を冷所で保存後、振盪することにより、瓶内部に黄色様物質が付着することがありますが、成分・含量等には影響はありません。（常温で保存することが望ましい。）

安定性試験

室温保存（室温、6ヵ月）、照射（37℃、1000ルクス、2ヵ月）及び加温加湿（40℃、湿度80%、3ヵ月）の各条件下での安定性試験の結果、ジメモルファンリン酸塩シロップ小児用0.25%「TCK」は経時的に安定であると考えられた。²⁾

【 包装 】

500mL

**【 主要文献 】

- 1) 第十六改正 日本薬局方解説書
- 2) 辰巳化学株式会社：安定性試験

*【 文献請求先 】

主要文献に記載の社内資料につきましては下記にご請求下さい。
辰巳化学株式会社 薬事・学術課
〒921-8164 金沢市久安3丁目406番地
TEL 076-247-2132
FAX 076-247-5740



製造販売元
辰巳化学株式会社
金沢市久安3丁目406番地